

キュレトリアル・メッセージ

テーマ「ニュー・メナジェリー*」について

黄金町エリアマネジメントセンターは、2008年の黄金町バザールを引き継ぐ形で、2009年から11年間、AIR（アーティスト・イン・レジデンス）を中心とした「アートによるまちづくり」を行ってきました。主に東アジア・東南アジアとの連携を深めてきた黄金町のAIRは、これまで約500組のアーティストを受け入れ、派遣しています。黄金町のAIRは、他のAIRとは少し異なり、長期滞在者を生み出す「アートによるまちづくり」を軸に展開しています。言い換えると、黄金町は「価値のある」もしくは「唯一無二な」アートを展示する必要性に駆られることはありません。むしろ、長期的に発展していく共同体、アーティストという異なる視点や技術を持った存在が新たなことに挑戦し、地域に対してなにか刺激を与えられる環境を生成することを目標にしています。

「黄金町バザール 2019—ニュー・メナジェリー」は、アート、アーティスト、来場者、NPOの新たな関係性を開きたいと考えています。異国趣味や植民地主義がアートの歴史にどのように関わってきたのかを認識しつつ、AIRはどのようにして自己を反省し、実り豊かな文化交流の場となりうるのでしょうか？ 一方的なスペクタクルではなく、相補的なコラボレーションを含んだ、新たなマネジメント（New Management）による展覧会「ニュー・メナジェリー」（New Menagerie）は可能なのでしょうか？ 既存のシステムに対して疑いを投げかけ、アーティスト、来街者、地域住民、事務局が水平的な関係のもと、創造的となる展覧会様式を見つけることはできるのでしょうか？

アーティストには、見る/見られる、主体/客体、支配/被支配といった二項関係を揺さぶること、そして、まちを舞台とするなかで、私たちがもつ「芸術作品」という概念をどのように変化させていけるのかについて探求することを期待します。加えて、アーティストとNPO、地域住民と来街者、観客と展示物といった関係性を見つめ、より共同で制作に向き合える構造を生み出すことができるのかについて模索することを求めます。アートを介した人々の関係、その新たなエコロジーを「ニュー・メナジェリー」は生み出したいと考えています。

*メナジェリーとは、フランス語の家畜の管理（マネジメント）を意味する「menage」を語源とする、近世ヨーロッパ（16-18世紀）の王侯貴族たちが、アメリカ大陸やインド洋航海ルートの「発見」により、これまで見たこともなかった動物や植物を一堂に集めた動物飼育舎です。

黄金町バザール 2019
キュレトリアル・チーム